

## 『KUWVOB南竜集中PW2009』

8期 山村 嘉一

※日程：2009年7月25日～27日

※コース：各自の状況に合わせて、自己責任で白山の南竜ケビンに集まろう!!

### 参加メンバー

7期 村田 泰恵、吉村 弘二

8期 伊豫 欣二、篠島 益夫、藤井 信晴  
柳川 徹 山村 嘉一

9期 谷道 正晴、鍋島 武、山中 重夫  
吉田 幸造

10期 伊豫 敦子、島林 仁司

以上13名。うち25日一泊は、篠島、鍋島  
26日一泊は、谷道、吉田 以外は全員二泊

以下、記録を付ける習慣が、非常に薄れてしまったうえに、記憶も斑ボケになりがちで、日時や人、出来事までが入れ替わることが多いのですが、鳥越さんの勧めにより、雑駁なご報告をさせていただきます。間違いが色々あるでしょうが、お許しください。

### ※きっかけ

そもそものはじまりは、昨年の創部50周年記念式典の二次会。そこで、酔いが回ったこともあって、『白山の南竜に集まるのはどうやろか?』、『そりゃ好い!やろうや!』、『行く、行く!』と盛り上がったのであった。この二次会は、8期の先輩に当たる方々を中心に、前後の期の人たちが現役時代に、何の下心もなく?よく飲みに行った人も多い“おでん吉田”さんの(当時)お嬢さんがやっている“パー秋子”に集まったものである。その時のメンバーは以下の17名であった。

中川 皓三郎(6期)、穴田 昭一、伊豫 欣

二、高水間 淑子、小谷 太平、篠島 益夫、野村 孝弘、藤井 洋治、柳川 徹、山村 嘉一(以上8期)、伊藤 俊成、白井 勇、鍋島 武、平村 耕作、保田 敦、山中 重夫、吉田 洋次郎(以上9期)

ご覧の通り、冒頭の参加メンバーと比べてみると、お酒の影響がかなり大きかったことが良く窺える。(もっとも参加したい気持ちは強いものの、どうにも都合のつかない事情の人がほとんどでしたが…)

8期としては、2003年9月に同期会を湯涌温泉一泊でやり、楽しく、懐かしいひと時を過ごした。その時も元気な人は遠方からの参加にもかかわらず、前後にそれなりの山行を組み合わせた人が何人もいた。しかし、それ以降、8期の連絡責任者である山村は、何かやりたいなあ～、それも温泉一泊というのはワングルOBとしてはちょっとさびしい限りだし、最大公約数的な行動範囲とすると医王山往復ぐらいを絡めるくらいしかないかなあと考えていた。その後、山村の胸の内には、白山の南竜のケビンならば、各自がそれなりのペースでゆっくりと集まることができるのではないかというアイデアが湧いてきた。それが50周年の二次会で一気に盛り上がった訳であった。

それから約半年後の2009年4月1日午前9時が白山の夏山シーズンの宿泊施設の予約受付開始である。当然その時刻を待ってダイアルしたが、何度やっても話中音。午後になってようやくつながったが、7月25日、26日各2室の希望のうち、25日はかろうじて最後の1室のみ、26日は2室の確保ができた。その後、メールやメールをやらない人には往復はがきなどで案内をして、『KUWVOB南竜集中

PW』なるものが、どうにか実現した。

しかし、世話役山村の心がけが悪いのか、一番良い時期を選んだつもりだったが、お天気は良くなかった。山村はそれなりに気を遣って、7月5～6日一泊の“偵察行”をやったが、この時も天気は芳しくなかった。

#### ※7月25日（1日目）

さて、当日、山村は3:00前に自宅を出発し、途中、鍋島さんをピックアップして、市ノ瀬到着が4:25。すでに駐車場はかなり埋まっており、別当出合行きが一番バスには列ができつつあった。雨は降ってはいなかったが、良くない気配。バスはすぐに一杯になり、定刻5:00の少し前に出発、5:17には別当出合から登り始めた。お酒を欠かすことのできない山村は、2リットルの“箱入り清酒”を、馬力のある鍋島さんに持ってもらったが、それでも15～6kgのザックは歳には重く、彼に置いて行かれないように、彼の前をゆっくり歩いた。鍋島さんにしたらじれったかったことだろう。途中からは時々雨や風に見舞われながら、コースタイムをかなりオーバーした9:07に南竜の受付棟に到着。早速ロング缶で乾杯した。鍋島さんによれば、現役時代も鍋島、山村のコンビ山行には雨が付きものだったとのこと。

その後、①南ア縦走途中から引き続いて参加の篠島さん、②東京から飛行機組の吉村、柳川さんに、一緒になった村田さん、③これも東京方面から自家用車で来た山中、藤井さん、さらに④大阪を早朝に発ってきた伊豫夫妻、島林さんの順に風雨の中を歩いて来られて、本日の宿泊予定者が全員揃った。現役時代に習慣化させられた細引の携行が、濡れた衣類

を吊るすのに役立ったが、ケビン内に細引を結び付けるフックなどがなかったので、ちょっと苦勞した。

天気も悪いし、まあゆっくりしようやと持ち寄った、お酒、ワイン、ウイスキーなどのアルコール類の他に、自家栽培の自慢のトマト、キュウリなどが並んだ。

山村としては、来年や、次回のことなど考えてはおらず、とにかく今回をやれば、次は誰かやりたい人がどのつもりだった。しかし、話題はそちらの方に進み、毎年梅雨明けが遅くなっているから、8月に入ってからの方が良いとか、土日は避けた方が良いとかで、早々と来年は8月5日（木）～7日（土）でやることに決められてしまった。

ケビンは定員5名では広すぎるが、11名では少々窮屈。それでも室堂山荘にギューギュー詰めになること思えば上等。尤も、伊豫（欣二）、島林さんが、寝具や敷物入れの戸棚状の所を二段ベッド方式で我慢。

夕食後のケビンでの二次会には自然解説員として入山していた奥名さんも加わり、ワイワイガヤガヤと懐かしい話に花が咲いた。村田さんが昔のワンゲル歌集から今回のために抜粋・編集してこられた歌集で、久方振りに歌も歌った。

#### ※7月26日（2日目）

濃いガスと雨でどうしようもない。そんな中、鍋島さんが6:48に、次いで篠島さんが下山。残ったメンバーは天気が良いければ、頂上周辺からお花松原あたりのワンデリングを考えていたが、とてもその気になれない天気。そのうち少々雨が止み始めたので、せめてエコーラインで花でも見ながら、室堂まで行ってみようということになって出発したが、エコー

ラインの途中で再びドシャ降り。見る間に登山道が小沢状態になり、引き返すことになった。南竜山荘の乾燥室などを使わせて頂いたり、この日の自然解説員のスライドによる解説を聞いたりした後、ケビンでの沈殿と相成った。

この日、谷道、吉田さんが入山。

夜、雨が上がり、いつとき、福井方面の夜景がきれいに見えた。(前夜だったかな?)

#### ※7月27日(3日目)

相変わらず天気の悪い中、谷道さんが早々に下山。みんなも様子を見ながら、雨の中をゆっくり下山することになった。元気な吉村さん、柳川さんは分岐点から、黒ボコ岩へ登り返して観光新道を下山

(しかし、かなりしんどかったとのこと)。伊豫さん他数名も途中まで花を見に。下るに従って雨も上がり始め、無事別当合に到着。新装なった白峰の総湯に浸かって、解散となった。後は、蕎麦屋へ寄った人、岩魚を食べにどこかへ立ち寄っ

た人、早くビールを飲みたくて自宅へ直行した人など、それぞれであった。

雨に降られっぱなしだったのに、とても楽しかった、来年もまたやりましょうという、メゲルことの知らない皆さんでした。

以上

ところで、『KUWV 南竜集中PW2010』は、2010年8月5日(木)～8月7日(土)で行われる予定です。(ケビンの予約は、2010年4月1日の電話のつながり方次第です。)

参加ご希望の方は、8期山村まで、ご一報ください。なお、連絡先は以下の通りです。

住所：〒920-0335 金沢市金石東2-7-8

自宅電話：076-267-4704

PCMail：spsf55t9@song.ocn.ne.jp

携帯電話：090-215-6099

携帯Mail：yskzymmr@docomo.ne.jp

こんな感じで2泊3日の住居？  
表示をしました



26日の朝ガスに包まれたケビンの前で  
1日目お泊りのメンバー



テントと違って沈殿してても快適そうな様子



2晩目の夕食時のカンパ〜イ



ようやく雨が上がった中飯場で、水かさの増した不動滝を背に、2日目にお泊りしたメンバーのうち無難に砂防新道を下山してきたメンバー